

事態認識と把握に関わる誤用について

北京師範大学 翟東娜

中文摘要

本文通过分析中国日语学习者在作文产出中出现的词语搭配错误，思考了词语的搭配选择与对事物的认识与把握的关联。

学习者在词语的搭配选择上出现的错误，不仅与汉语和日语的同形汉字词的干扰有关，归根结底源于对该词语搭配乃至句子所指事物的认识与把握。这种对于事物的认识 and 把握，不仅反映在学习者的目标语言产出上，也与母语教师对该产出的解读和订正直接有关。

学习者的母语与目标语言对于所指事物的认识和把握既有相同之处也有不同。即使具有相同的认知基础，由于两种语言的词语语义扩展深度和广度不同，在语言产出时，也会出现母语干扰引起的误用错误。

因此，教师在批改作文或开展错误分析之时，不仅要关注学习者母语与目标语的异同，更要关注其语言表达背后对事物的认识和把握。在指导作文之时，应促使学习者充分思考所要表达的事物的性质特征，在此基础上选择贴切的语言表达。

キーワード： 語の選択使用、事態認識と把握、母語の干渉、目標語の産出

1. はじめに

中国人日本語学習者の母語干渉に関わる誤用の一つは、漢字語によるものと言われている。例えば、学習者の作文から採集した誤用例には¹、

*負担が重い（大きい）

*大きい風（激しい）

*成績が進歩する（上がる）

など、明らかに母語の干渉によるものが多い。しかし、次の例のように、

*子どもにとって弊害がもっと多いです。（非常に大きい） cn056ns2

の場合は、一見して中国語の影響かと思われるが、日本語でも「弊害が多い」と言わないことはない。また、次の例のように、

*スモーカーの年齢が小さくなる（低くなっている） cn048ns1

の場合は、日本語だけでなく、中国語でも「年齢が小さくなる」とは分かりにくい。

以上は語の選択使用における誤用になるが、誤用の原因として漢字語による母語の干渉と考えられる。形容詞だけを例にすれば、表1になる。

表1 中国語と日本語における形容詞の負の転移例

中国語	負担重	大风	弊害多	年齢小
負の転移	負担が重い	大きい風 ²	弊害が多い	年齢が小さい
日本語	負担が大きい	激しい風	弊害が大きい	年齢が低い

しかし、負の転移の背後にはどんなメカニズムが働いているのか、この表だけでは説明しきれない。小論は「*子どもにとって弊害がもっと多い」「*スモーカーの年齢が小さく

¹ 以下の3例は北京師範大学に在学していた中級学習者の作文から採集したものである。

² 「大風」なら適格になるが、このような和漢同字形容詞の用法については別稿に譲る。

なる」を例に、その言語表現が指す事態に対する認識と把握から誤用と訂正の原因を考察してみたい。適格性判断と考察には、辞書のほか、中日対訳コーパスと日本語作文データベース、インターネットの検索結果を参考にする。文中にある用例は中国語の場合が“ ”、日本語の場合が「 」と区別して示す。

2. 弊害が多い？ 弊害が大きい？

「多い」と「大きい」はともに物事の性質を表す属性形容詞であるが、「多い」は物事の数量を把握するのに対し、「大きい」は物の体積を把握するのが基本で、そこから程度、規模などを表すことになる。

日本語では、「弊害」を数量的に捉えることは次の例から分かる。

例 1. 人間の造った社会、人間の造った制度には、弊害のないものはない。弊害をすくなくし、制度の欠陥をおぎなうために、法律が制定される。

(青春の蹉跎)

例 2. 一方、X 集団の短所は、「ヨコ」の関係が機能しにくいことにある。セクショナリズムが数々の弊害をもっていることは今さらここに記すまでもなからう。

(タテ社会の人間関係)

「弊害が多い」例は検索されなかったが、「数々」と「少ない」などとの共起から「弊害」に対して量的に把握できることが分かる。それでは、なぜ「*子どもにとって弊害がもっと多い」は誤用と判断されたのだろうか。

数量を表す「多い」で事態を認識すれば、この文の隠れ意味として、次の内容を含意していると理解されやすい。

a. (大人にとって弊害が多い。しかし、) 子どもにとっては弊害がもっと多い。

或いは、

b. (大人にとって弊害が少ない。しかし、) 子どもにとっては弊害が多い。

一方、程度を表す「大きい」で事態を捉えれば、次のように理解される。

c. (大人にとって弊害が大きい。) 子どもにとっては弊害がもっと大きい。

d. (大人にとって弊害が小さいかもしれないが、) 子どもにとっては弊害が非常に大きい。

日本語母語教師による「子どもにとっては弊害が非常に大きい」という添削の背後にある事態把握は、喫煙はだれにも弊害があり、特に子どもに影響が大きいことは常識であろう、と想定される。したがって、この添削例は「喫煙が子どもに対する弊害」という事に対して程度の問題として認識把握することによると思われる。

一方、作文産出の角度から考えよう。“弊害”の例について、インターネットで検索してみれば、

文身弊害多

小儿激素退热弊害多

焚烧秸秆弊害多

のように、ほとんど記事のタイトルとしての“～弊害多”という表現であった。中国語では“弊害”を量的に把握し表現することが分かる。これはそのまま、

喫煙は弊害が多い

と表現すれば中国語でも日本語でも適切であるが、

？子どもにとって弊害が多い

となると、前で考察したように、日本語においては程度の問題として認識把握するのが常識のようで、量的な把握なら理解されにくい。

このように、「*子どもにとって弊害がもっと多い」のような産出は、母語中国語の“弊害多”という連語形式の影響かもしれないが、根本的には、表現しようとする事態をどう認識し把握するかによるのではないかと思う。作文執筆者本人による母語訳は、

吸烟对每个人都没有益处。特别是对孩子来说，更是有百害而无一利。

中国語として、量的な把握である“有百害”という表現は特に不自然なことはない。それを日本語で量的に表現すると「さらに弊害が多い」となるのである。

この事例から、語の選択使用においては、中国語と日本語の同形漢字語による影響のほか、その語及び連語ないし文が表現する物事の有り様に関わるし、根本的には、どのように事態を認識し把握するかに関わることが分かる。

3. 年齢が小さくなる？ 年齢が低くなる？

まず、形容詞を中心に、中国語と日本語にはどんな年齢表現があるかをまとめてみよう。

中国語の場合、年齢表現に関わる形容詞または形容詞的造語成分には、最低限表2のようなものがある。

表2. 形容詞による年齢表現（中国語）

年齢名詞 + 形容詞	年齢 / 年纪 / 岁数 + 大 / 小 年齢 + (偏) 高 / 低 / 大 / 小
年齢成分+形容詞成分	年 + 长 / 幼 / 轻
形容詞成分+年齢成分	老 / 中 / 青 / 少 + 年 高 / 大 / 低 + 龄
形容詞 + 時間詞	小 / 年轻(的) + 时候

表2のように、中国語の年齢表現は大体“大小、长幼、老少、高低”の四系列の形容詞と関わる。中では、“大 / 小”は元来物の体積を把握するもので、年齢詞と共起する用法は人間の体と年の相関関係から拡張されてきたのではないかと思う。“长 / 幼”と“老 / 少”はそれぞれ人間の社会的属性と生物的属性から来た表現と考えられる。“高 / 低”は、年齢を数値として把握する用法であろう³。

一方、日本語では、年齢表現に関わる形容詞または形容詞的造語成分には、大体次のようなものがある。

表3. 形容詞による年齢表現（日本語）

年齢名詞 + 形容詞	年 + 上・下、若い 年齢 + 高い・低い
形容詞成分+年齢成分	老・中・青・少・高 + 年

³ 例えば、“因为当时党的领导机构的成员年龄偏高，所以决定在两次代表大会之间开一次党代表会议，中心目的是实现年轻化。(邓小平文选第三卷)”のように、何らかの基準があり、その基準以上の年齢の場合、数値が高いという意味で用いられる。

	高・老 + 齢
形容詞 + 時間詞	小さい・若い + 時・ころ

表3のように、日本語では「上下⁴、高低、老若、大小」の四系列が主であろう。「上／下」は人間の社会的属性から来る表現で、中国語にない表現である。「高／低」と「老／若」は中国語と共通する数値的、生物的属性に関わるものである。「大／小」は「時、ころ」「子、お兄さん」などと共起する表現で、年齢名詞を修飾しないことからその意味拡張は中国語の“大／小”ほど進んでいないと考えられる。

こう見れば、問題の「*スモーカーの年齢が小さくなる」は、中国語の干渉による誤用例と判断してもいいが、一個人として、“他年纪大了”とは言いが、“他的年龄变小了”とは不適格になる。これは言語外のいわゆる百科知識か常識による判断である。つまり、人間は生き物として成長するにしたがって、年をとる(年齢が高くなる)⁵のは常識であるが、小さくなることは普通考えられない。何かによって小さく見えるか若返ることはあっても、年齢そのものは逆戻りできない。そのため、年が「小さくなる」ことも「低くなる」こともないはずであるが、例の作文例は、

スモーカーの年齢が低くなっている。

と訂正されている。つまり、スモーカーの平均年齢という数値的な捉え方による表現である。一個人でなく、複数の人の年齢に言及するとき、統計する手続きが必要になる。統計的数値を表す棒グラフに見られるように、「高い・高くなる」「低い・低くなる」ことが目で分かる。このような事態把握は言語表現に反映して、その添削につながるのではないかと思う。一方、

(スモーカーの人数が増えるだけでなく、)スモーカーの年齢が小さくなること、(それに女性スモーカーの増える速度が速すぎることに)も気が付きました。)

という誤用例の文脈から分かるように、作文産出者がここで取り上げている事態は一人のスモーカーではなく、スモーカー全体の平均年齢である。作文執筆者による母語訳は、

“吸烟者的年龄越来越小”

となっているが、

吸烟者的平均年龄越来越小。

吸烟者的平均年龄降低了。

という認識によって事態を捉えているにちがいない。このような数値的な把握は、中国語の場合は“高/低”だけでなく、“大/小”でも表現できる。しかし、日本語の「大きい／小さい」は年齢表現において中国語の“大/小”ほど意味拡張されていないため、これを日本語で

*スモーカーの平均年齢が小さくなる

と表現すると不適切になる。したがって、この誤用は、語の選択段階で母語の干渉によって「年齢が小さくなる」をとることが原因であろう。

⁴ 中国語にも“上了岁数”“上年纪”のような用法があるが、対応する“下～”の用法はないし、限定表現ではなく、「年をとる」という意味に対応する表現である。

⁵ 例えば「カルチュア・ショックは、どの国の人でも異国にはじめて行った場合に、きわめて強烈に受けるものである。そして、その度合はそのときの年齢が高くなるほどひどくなる。」『適応の条件』

この事例から、事態認識と把握において、中国語と日本語は共通な認知基盤を持つものでも、語の意味拡張のずれなどから、言語表現においては、いわゆる母語干渉による誤用が起こることが分かる。

4. おわりに

以上の事例考察を通して、言語表現における語の選択使用と表現しようとする事に対する認識と把握の相関を考えてきた。語の選択使用の背後には、その語や語と語の結合ないし文が表す事態に対する認識と把握があり、このような事態把握は言語表現に反映するのである。学習者の目標語の産出も、母語教師のそれに対する読み取りと添削も、語の選択使用と事態認識という二つの要素が働いていると思われる。

事態認識と把握においては、学習者の母語と目標語で一致するものと一致しないものがあるが、共通した認知基盤を持つものでも、語の意味拡張のずれなどから、言語産出においては、いわゆる母語干渉による誤用が起こることがある。

したがって、作文添削と誤用分析のとき、母語と目標言語の異同とともに、言語表現の背後にある事態認識と把握にも目を向けることが望ましい。さらに学習者に対する作文指導のとき、表現しようとする物事の有り様について、十分に考えさせた上、適切な言語表現と結びつける工夫をさせることが重要である。

参考文献

1. 大滝幸子編著 2002『日本語・中国語 形容表現例釈』東方書店
2. 迫田久美子 2002『日本語教育に生かす第二言語習得研究』アルク
3. 飛田良文、浅田秀子著、金中译 2002《现代日语形容词用法词典》外语教学与研究出版社

用例の出典

『日本語学習者による日本語作文と、その母語訳との対訳データベース』国立国語研究所
《中日対訳語料庫》北京日本学研究中心 2003